

環の家

設計者／浅見建築設計室 浅見俊幸+浅見千晴
施工者／狩野建築工房



設計趣旨 CONCEPT

「夫婦で暮らす為の機能的でゆったりとした平屋の建物と庭が欲しい」それが施主からの最初の要望であった。初めて敷地を訪れた時、敷地の南方に有る岩宿遺跡に思いを馳せた。この太古の集落においても今と同じ風を感じ雨の恵みを受け建築に生かしてきたに違いない。それは①環境、風土や伝統、自然と共生することを根底に据えたものづくりであることに他ならない。そして②手仕事が生きる意匠やその精神を大切に、調和を保ちながらもウラギヤムラの有る様子。そんな建築が、機能的でありながらゆったりと庭と連続した暮らしを可能にするのではないかと考えた。この2つの基本方針のもと、敷地の特性に呼応して建物の形態と配置を注意深く行い、

単純で美しい木造垂木構造の屋根で建物全体を覆った。角地の形状に沿って建物をL字に折り曲げることで北から吹付ける赤城おろしを防ぎながらプライバシーが適度に保たれた庭の領域を囲い取る。軒高を低く、軒先を深く(1.4m)出すことで夏の日射を防ぎ冬の陽射しは十分に取り込むと同時に激しい雨が外壁や窓に直接吹付けることを軽減する。そんな単純で当たり前のことを心がけ、安心して豊かに暮らせる住まいを希求した。また、一人の大工の手仕事により刻みから造作までを行い、木造建築の原点のような佇まいを目指し、建物の「もの」としての耐久性はもとより、長く心に残ってゆくような建物をつくりたいと願った。